



子どもたちの表情を気にしてみましょう！

いつもの年よりも、桜の花が咲き誇り、美しい新緑の季節が早く訪れるなど、自然の営みの不思議さ、壮大さを感じる一か月となりました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い、授業や行事等への取組もコロナ禍以前の状態により近づいてくるのではないのでしょうか。子ども同士や担任と子どもたちの関係性もより深くなって、充実した教育活動が展開されることを願っています。

4月からマスク着用が緩和されてきましたが、5類移行に伴って、マスクを外す子どもたちも多くなってきているようです。久しぶりに子どもたちの豊かな表情を見ることができるようになりました。まだまだ感染症に対して不安を抱えている子どもも少なくはないようです。マスクを外すことへの不安を感じている子どもたちもいることでしょう。

様々な思いをもちながら学校生活を送っている子どもたちの表情に気を配り、その表情や言葉に寄り添える教師でありたいですね。

授業の中で見せる子どもたちの表情を気にしてみましょう。



～第1回市立学校長会議～



第1回校長会議が、4月27日に市役所大会議室において行われました。教育長からは、「安心・安全な学校」づくり、「協同的な学び」の深化、「小中一貫教育」須賀川モデルの推進、「教職員の働き方」の改善の4点を中心にお話がありました。一年間、校長先生を中心に、危機意識をもって本気で学校づくりに取り組んでいきましょう。

<「須賀川市教育委員会学校教育の重点」よりピックアップ>

○不登校児童生徒の支援

- ・いじめの積極的認知と被害者に寄り添った迅速な対応による新たな不登校の未然防止

○「協同的な学び」の推進

- ・不登校未然防止につながる生徒指導機能を生かした実践

○個に応じた支援の充実、特別支援教育に対する理解の推進

- ・新設された市教育支援センターの相談・支援機能の強化・活用・広報

○学力向上の推進

- ・学校教育アドバイザー派遣の見直しと効果的な校内研修支援

※「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」の推進・充実のためにも、教育研修センター・教育支援センターの各種事業を積極的に活用してください。

5月8日（月）、市役所において、令和5年度須賀川市学校教育指導委員委嘱状交付式・第1回研修会が開催されました。研修会では、教育支援センター（教育研修センター兼務）指導主事の庄司康生先生を講師として「授業の見方・考え方—学校教育指導委員として—」について研修しました。

その内容について、一部紹介します。

### □学校の“ミッション”は？そして、あなたのミッションは？

「すべての子どもの学びを保障すること」

- ➔子どもたちが今、  
・何が必要なのか。  
・何を必要としているのか。  
・何を求めているのか。



「すべての子どもの声を聴く」

### □主体的な学び

主体的に学ばせる→??

J. デューイ「馬を水辺に連れていくことはできる。

しかし、・・・。」

水を飲む、飲まないは、馬しだい…。

DIY (Do It Yourself) …そのためにどうするか？

### □「教師」の存在

学びをつくるのは「教師」

学ぶ子を育てるのは「教師」

子どもが集まっても、学び合いは（ふつうは）生まれない

**聴き合う子どもを育てること**

**学び合う関係性を育てること**

小1,2 「ペア」

小3 「聴き合う」関係→グループ「探究」

小4,5,6 探究の深化・聴き合うつながりの構築

中1,2,3 思考力の完成は、思春期（15歳）

### □「ねえねえ、これなあに」

隣の子を見る

隣の子に聞く（・尋ねる・訊く・聴く）

聞かれたら さりげなく教える  
さりげなく心を配る

- ・学びには「他者」が必要  
→「対話」（自己内対話）
- ・人にうまく頼れることが主体的・自立



「ありがとう」＝「有り難し」  
有ることが難しい、とても貴重である、ということです。だから、感動し感謝するのです。だからマザー・テレサは、「ありがとう」の反対語を「当たり前」と言ったそうです。

『えみさん家の“生き抜く力”をつける子育て』というコラムでは、「当たり前」をどこにつけるかが大事だと述べられていました。

相手に「当たり前」をつけると、相手がやって当たり前となり、感謝の気持ちは起きません。やってくれない相手に対して不満や愚痴が出てきます。

しかし、自分に「当たり前」をつけた時、つまり自分がやって当たり前だと思っていると、相手がしてくれた時に「感謝」の気持ちが沸き起こるのです。相手がやってくれなくても、相手を責める気持ちにはなりません。

教室や職員室、家庭などでのちょっとしたトラブルや不快感の中には、「当たり前」のつけ方で解決・解消できることがあるのかもしれませんが。

コロナ禍以前に近い日常が戻ってきつつある今、「当たり前」について様々な視点から考えてみたいものです。

授業づくり研修会や学校教育アドバイザーの先生方からいつもお聞きしている内容ですが、子どもたちを目の前にして授業づくりをしていく際に、いつも心にとめておきたい内容です。校内授業研究会等でも、一人一人の先生方が、このような視点をもって子どもたちをみていきましょう。